

コミュニティ・スクールを活用した地域連携・地域交流

1 目的

禾生第一小学校では、「地域とともに歩む学校づくり」を掲げ、コミュニティ・スクール（CS）を活用した地域連携を計画的に推進している。令和7年度は、地域文化や伝統芸能に触れる体験を通して児童が地域への誇りや愛着を育むこと、地域人材の教育参画を促し、児童の学びを実践的・体験的に豊かにすること、学校・家庭・地域が協働して児童の安全と健全な成長を支える体制を構築することを重点として取り組んだ。また、学校運営協議会を核とし、学校課題の共有と改善を地域とともに進めることを目指した。これらを通して、地域と一体となった教育活動を推進している。

2 経過（令和7年度の実践）

CS委員と教職員による熟議を重ね、次の方向性を共有した。

（1）地域理解を深める機会の充実

地域の文化・歴史（神楽、八朔祭り等）を授業と連携して学ぶ機会を設定する。

（2）地域資源の活用と情報共有

見守り隊、スクールガード、学生ボランティア等の情報を一覧化し、教員間で共有する。

○これらを踏まえ、以下の2つの取組を実施した。

・**伝統芸能を学校で学ぶ取組として「神楽鑑賞会」を実施**

四日市場神楽保存会の協力により、本物の舞や囃子の音に触れる貴重な機会となり、児童が地域文化の継承について考える契機となった。

・**家庭科におけるミシン学習で学生ボランティアが支援**

都留文科大学の学生が学級ごとに入り、児童一人ひとりの操作を丁寧にサポートした。ミシンが苦手な児童にも寄り添った支援が可能になり、学習への安心感が大きく高まった。

3 成果と課題

【成果】

・**神楽鑑賞会の充実と児童の主体的参加**

四日市場神楽保存会（2015年の南都留教育フォーラムでも演舞を披露）の皆様のご協力により9月1日の祭典行事の合間を縫って鑑賞会を実施できた。令和7年度は、本校児童3名が演者として出演し、地域文化の継承に主体的に関わる姿が見られた。CSの委員でもあり神楽保存会のメンバーでもある吉澤様による解説や舞の意味の紹介も加わり、児童の理解がさらに深まった。また、地域文化を「地域の大人が活躍する姿を知る機会」として、児童が地域の伝統を支える人々の思いに触れる機会となった。



・**家庭科ミシン指導における地域・大学との連携の深化**

地域ボランティアとして都留文科大学の学生が学級単位で協力に入り、学校だけでは難しい一人ひとりに寄り添った指導が実現した。ミシン操作の補助、安全指導、作品の仕上げに関する助言など、細やかなサポートにより、児童は安心して作業を進めることができた。



・**学校と地域の協働体制の定着**

これらの取り組みにより、学校と地域が共に子どもを育てる協働体制が定着しつつある。ボランティアが主体的に役割を担い、教員との連携も円滑になったことで、授業改善や活動の質向上につながっている。